

KIN KON

KISHU
ICHIKAWA
NIIGATA
KATSUTA
OSAKA
NAGAOKA

2019
春夏



北越コーポレーション

KINKONは、当社工場の地名の頭文字を組み合わせ、お客様を訪問する際のチャイム音「キンコン♪」をイメージした、当社の環境活動通信誌です。

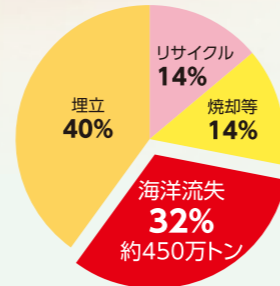
海洋プラスチック問題の解決に向けて

▶海洋プラスチック問題とは

プラスチックはその機能の高度化を通して、私たちの生活を豊かにしてきました。一方で、ポイ捨てや不法投棄などにより、世界全体で年間約450万トンのプラスチックごみが海洋へ流出していると言われています。

海洋に流出したプラスチックは紫外線や波で劣化して5mm以下のマイクロプラスチックとなります。しかし、それ以上の分解は進みません。これを魚や海鳥が誤って飲み込むことで体内へ蓄積されてしまい、食物連鎖を通して生態系への影響が懸念されています。

プラスチック包装ごみのゆくえ



出典：UNEP [SINGLE-USE PLASTICS -A Roadmap for Sustainability-] (2018)

▶世界・グローバル企業のうごき

14 海の豊かさを守ろう
海洋ごみの削減は、持続可能な開発目標(SDGs)のターゲットのひとつとして掲げられており、世界共通の課題となっています。

近年、プラスチックによる環境汚染を抑えるために、世界中で使い捨てプラスチックの規制が始まっています。

また、グローバル企業を中心に、プラスチック製の容器包装やストローの使用を廃止し、代替素材への転換・開発を進める動きが活発になってきています。

使い捨てプラスチック規制の一例

国、地域	規制内容
フランス	・プラ製レジ袋の使用禁止(厚さ0.05mm/容量10L未満) ・プラ製スプーン、食器などの販売禁止 ※2020年～
イギリス	・プラ製レジ袋の有料化 ・プラ製ストロー、マドラーなどの販売禁止 ※2019年以降
カリフォルニア州(アメリカ)	・プラ製レジ袋の使用禁止 ・プラ製ストローの飲食店での提供禁止
中国	・プラ製レジ袋の使用禁止または有料化
南アフリカ	・プラ製レジ袋の使用禁止または小売業者への課税

※当社調査結果

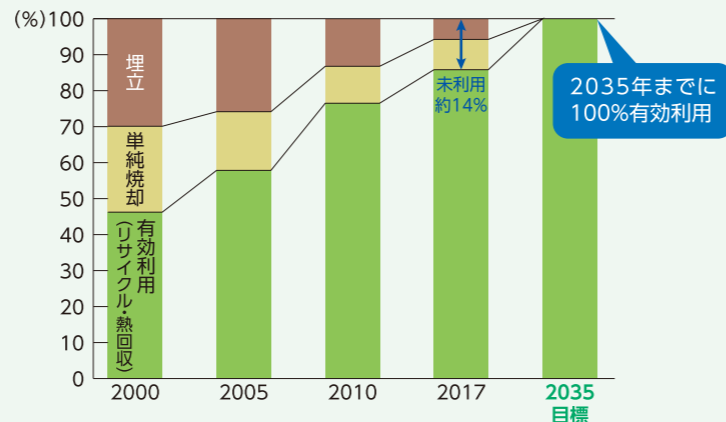
▶日本のプラスチック戦略

日本で海洋に流出するプラスチックごみは、年間2～6万t(プラスチック利用量の1%未満)だと言われています。これは、2001年に施行された『循環型社会形成推進基本法』にのっとり資源の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を進め、右のグラフに示すようにプラスチックの高い有効利用率を達成した結果だと言えます。

しかし、未利用のプラスチックごみが約14%あり、なおもプラスチックごみの削減や資源循環を進めていく必要があります。

日本政府は大阪で開催されるG20サミットに合わせて、2019年5月に『プラスチック資源循環戦略』を策定しました。この中には、「2035年までに使用済みプラスチックを100%有効利用する」といった目標が盛り込まれています。

国内の廃プラスチック有効利用率の推移とプラスチック資源循環戦略における目標



一般社団法人プラスチック循環利用協会
『2017年 プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況』(2018)をもとに編集

▶北越グループの提案

紙は、リサイクルができる資源であるとともに、生分解性を持つ素材として知られています。

北越グループでは、紙ストローや紙マドラーなどの原紙を供給しています。また、紙を薬品処理することでつくられるバルカナイズドファイバー(VF)は、オールセルローズ材料でありながら強く硬い素材であるため、スーツケースや工業材料の他、文具などにも適しています。その他にも、特殊な硬質繊維ボードのPASCOは、その強靭さを活かして什器や緊急グッズとして使用されています。

今後も環境課題の改善に貢献する製品の安定供給・新製品の開発に取り組んでまいります。



紙ファイル



紙ストロー



紙マドラー&紙コップ



紙スプーン

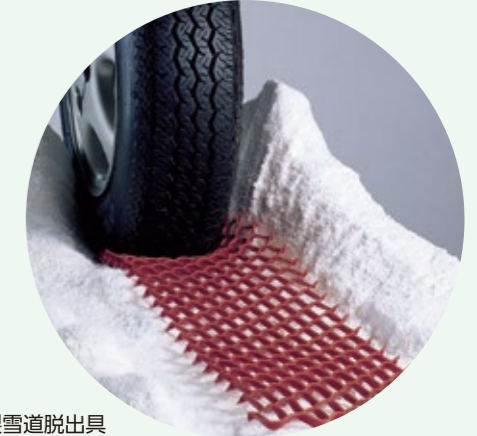


VF製2穴ホルダー



VF製ミニフック

PASCO製雪道脱出具



お問い合わせはこちら
紙ストロー・紙コップ……………白板紙営業部 03-3245-4655
紙ファイル・紙マドラー・紙スプーン……………特殊・情報用紙営業部 03-3245-4616
VF製品・PASCO製品……………機能紙営業部 03-3245-4668



生分解性とは

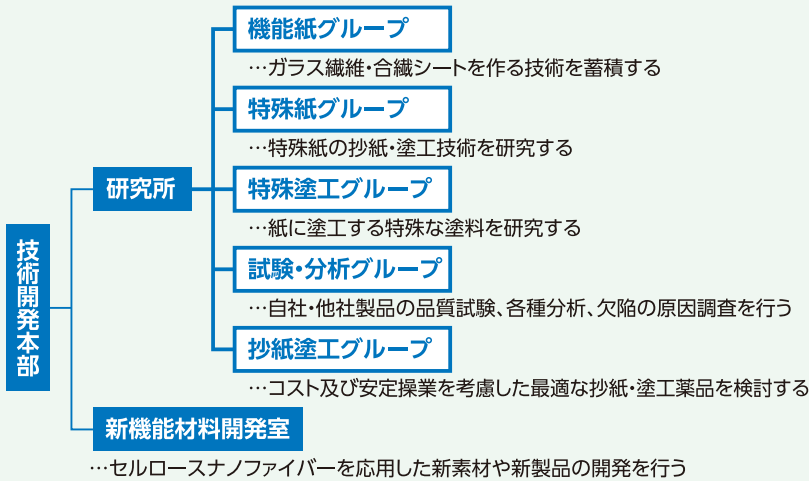
生分解性とは、化合物が微生物の働きによって炭酸ガスや水などの無機物に分解される性質を指します。ひとくちに「生分解性」といっても、それが置かれる環境(海洋、土壌、コンポストなど)によって、微生物の種類・数が違い、分解のされやすさが変わります。

マイクロプラスチックによる環境への影響を少なくするため、紙素材以外では、生分解性プラスチックの導入が注目されています。生分解性プラスチックは、水環境で生分解されるものが現在ほとんど無く、通常のプラスチックと一緒にリサイクルすることが難しいといった課題もありますが、今後、海洋プラスチック問題への解決に結びついていくことが期待されています。

	紙	ポリ乳酸*
コンポスト (高温多湿の堆肥化装置)	○ 分解される	○ 分解される
土壌環境	○ 分解される	✗ 分解されにくい
水環境	○ 分解される	✗ 分解されにくい

*ポリ乳酸：代表的な生分解性プラスチック

新素材・新製品開発を担う研究所



今回の表紙は、当社研究所をイメージしたイラストです。5つのグループから編成される研究所では、新機能材料開発室とともに、パルプや抄紙技術をもとに研究者自身のアイデアと創作で、社会やお客様のニーズに応えた新素材や新製品の開発を行っています。



エアフィルター濾材
「microfine®」を使用したユニット



圧着はがき

グループ環境憲章

2019年4月にグループ基本方針のひとつである『グループ環境憲章』を制定しました。環境に対する考え方を北越グループ全体で共有することで、さらなるグループ経営体制の強化を図っていきます。

グループ環境憲章

理念

私たちは、自然環境に与える影響を最小限にする「ミニマム・インパクト」の考えを全ての事業活動に展開し、人と自然が共生する豊かな未来づくりに貢献します。

基本方針

1. 環境に配慮したものづくりを推進します。
2. 地球温暖化対策を推進します。
3. 持続可能な森林の育成管理を行います。
4. 資源のリサイクルを推進します。
5. 廃棄物の削減と有効利用を推進します。
6. 環境負荷の低減に向けた設備投資を積極的に行います。
7. 環境コミュニケーションの充実を図ります。

○ホームページのリニューアル

グループ環境憲章の制定に合わせて、ホームページをリニューアルしました。



北越コーポレーション CSR・環境ページ



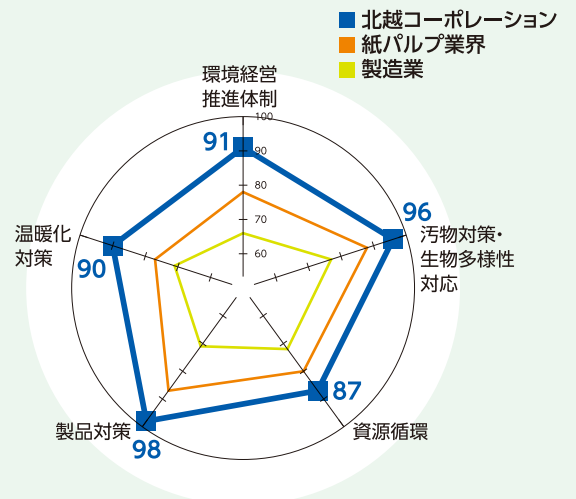
Hot News

日経環境経営度調査で紙パルプ業界首位を獲得

日本経済新聞社が実施した第22回「企業の環境経営度調査」において、当社は500点満点中462点を獲得し、製造業総合ランキングで360社中23位、紙パルプ業界では3年連続となる首位を獲得しました。

この調査では、①環境経営推進体制、②汚染対策・生物多様性対応、③資源循環、④製品対策、⑤温暖化対策という5つの評価指標から企業の環境経営度の総合スコアが算出され、ランキングが作成されます。

当社は5つの評価指標のうち4つで90点を超える高得点を獲得し、前年から11ランクを上げる躍進を遂げました。新たなグループ環境憲章のもと、今後も環境経営を推進していきます。



編集後記

資源の分別回収が進んでいる日本で暮らしていると、海洋プラスチック問題は遠い国の話のように感じてしまうかもしれません。しかし、日本の沿岸に漂着するペットボトルの製造国を調べたところ、日本海や東シナ海側では中国や韓国製のものが大多数を占めているという調査結果もあるように、ひとつの国で完結する問題ではありません。ひとりひとりが世界共通の課題と認識して行動していくことが大切です。

わたしたちも紙素材メーカーとして貢献できることに取り組み続けていきたいと思えます。

この通信誌の用紙にはミューマット-F 157g/m²を使用しております。

KINKON vol.11

2019年6月発行



エコパルプ®



スリムCO2®

【発行】

北越コーポレーション株式会社

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-2

TEL (代) : 03-3245-4500 FAX: 03-3245-4511

http://www.hokuetsucorp.com/

